十勝清水町から

清水町担い手支援アドバイザー
上谷明美

はじめまして！十勝清水町で畑作農家をしております上谷明美と申します。

平凡な農家の嫁の私が縁あってこのような文章を書かせてもらうことになりましたが小さい頃から勉強が嫌いで今さら文章を書こうにも句読点の使い方にも苦労するレベルです。

「楽しく」をモットーに身近な事について書いていきたいと思いますので皆さんお付き合いください。

◆今の十勝

三月とは思えないほど今年の十勝には積雪が多いです。先週はビートのポット入れ、にんにく畑の融雪など春の作業が始まりました。冬眠でお腹の周りについたチャンピオンベルトが作業に支障をきたしましたが久しぶりの外の空気に心がわくわくしました。

ビートの芽が出ると四月下旬の移植にむけて水やりと温度管理の毎日です。小麦畑も雪解けが進み、もう少しで畑一面が緑のじゅうたんでおおわれます。

春がきた！今年もがんばるぞ！

◆さてさて

農家、三人の子の母親という立場での私が今、一番に考えることは（食について）です。昨今、ＴＰＰや異物混入によ

上　谷　明　美（かみや　あけみ）さん

農業（十勝清水町）
昭和43年生まれ　福島県出身
14年前、憧れの北海道に嫁ぐべく婚活。
見事に射止めた（？）夫と夫の両親と子供3人の7人家族で小麦、ビート、小豆、金時豆、かぼちゃ、にんにく、スイートコーンなど36haを耕作しています。
趣味：刈払い機での草刈り…ホームセンターに行くと刈払い機が気になって仕方がありません。

る商品回収など食にまつわる問題が多くなっています。中国では人口増加に伴い、オーストラリアやアメリカから大豆や牛肉などの輸入も増えています。このままでは今まで日本に輸入されていた分まで中国向けになり、輸入に頼りすぎていた私たちはいつか食べるものに困るのでは…と心配しています。今、日本人は食べ物の事、食べる事を真剣に考えなければならない時期なのだと思っています。

そこで今回は食にまつわる私の思いを書いていきます。

◆鍋が嫌い!?

私は宴会での鍋が嫌いだ。鍋料理は大好きなのだが宴会で遠慮しながら食べる鍋はこの世から消えても良いと思っている。

帰り際に　煮込まれてぐったりした鍋の中身をみると悲しくなる。

二時間前には大皿の上で「今日の鍋の主役よ…」と輝いていた牡蠣や海老がうまみ成分を放出し、やせ細り、白滝や白菜にからまれながら鍋のすみっこに埋もれている。

二～三個しかない具材は最初に気のきいた人がポンポンと取り分けてしまえばよいのだが、自分で取ると遠慮合戦の末、誰にも食べられないという悲惨な結末になってしまう。

気の合う仲間との宴会の場合には、「もったいないから食べちゃうよ」とか「みんなで食べちゃおうよ」など、すんなり声も出るのだが、気心の知れない相手との宴会では大食いの私でも（やたらと取り分けて、おせっかいだと思われるのも嫌だし、鍋をきれいにさらえて大食いと思われるのもちょっと…）と遠慮してしまい冒頭のようにテーブルの上で悲しい結末をむかえた鍋の中身にあやまりつつ店を出るはめになる。

◆好き嫌い

遠慮して残されるのも悲しいのだが

最近は大人でも好き嫌いが多すぎて食べ残しが増えている事に驚く。私よりだいぶ年上の人が恥ずかしがりもせずに「あれも嫌い、これも食べられない」と言って食べ残しをしているのを見ると「あぁ日本は豊かなのだな」と思う反面「大人なのだから我慢して綺麗に食べなさいよ」と思う。食育が必要なのは大人なのだが、今更、効果がないので子供に食育をするのだと以前、栄養士さんに聞いたことを思い出した。

せめてわが子は好き嫌いのないように育てたい…と努力はするものの　長女は豚肉が苦手だし　次女も（ちまちま）と苦手なものを私の皿に載せてくる。

唯一、私の願いが叶い末っ子の長男だけは　好き嫌いなく食事を楽しんでくれるので頼もしい。朝は起きるとすぐに「今日は卵かけご飯を食べる」と台所に立つ。小学二年生にしては手さばき良く

卵を割り、どんぶりいっぱいの卵かけご飯をつくる。最近は（エアリー卵かけごはん）という白身を先に混ぜてから黄身をいれる　フワッとした卵かけご飯にはまっている。口いっぱいにごはんを頬張り「うんめぇ～」と雄叫びをあげる息子を見ると私も幸せな気持ちになる。

もちろん給食も楽しみにしていて、毎日「今日はあれがおいしかった」とか「おかわりをした」とか報告してくれる。人気のメニューはおかわりの希望者が多いので（じゃんけん）に勝てばおかわりができるらしいのだが（食い意地の神様）が息子に微笑むらしく、かなりの確率でおかわりをゲットしているようだ。よくよく聞いてみるとご飯もおかずも牛乳もおかわりしているようで二人前をたいらげているようだ。給食費は一人前しか払っていないのだから息子の成長はどこかの家庭にお世話になっていると思うと参観日などでは誰かれ構わずにお礼を言いたくなる。

◆ スーパーで

大人の好き嫌いとともに最近、私が気になるのは消費期限や賞味期限での食品廃棄です。スーパーに行くと「二割引」や「半額」のシールがベタベタと重ね張りされた食品たちが（買って～捨てられちゃうよ～）と私に訴えかけているようであっという間に買い物カゴがいっぱいになってしまうのです。

消費期限は品質に変化がでるので仕方がないとしても賞味期限はあくまでも美味しく食べられる目安なのでその日を過ぎたら食べられなくなるわけでもない。

私は賞味期限が切れたものを食べてもお腹もこわさないし具合が悪くなったこ

ともない。昔は食べ物の痛み具合は匂いを嗅ぎ食べてみて判断していた。四〇代以上の人は酸っぱくなった味噌汁や怪しい匂いを出しはじめたカレーを食べた経験があるはずです。日付ばかりを頼りにして判断ばかりしていたら人間がもっている体の中の危機管理能力も衰えてしまうだろう。

毎日大量の食品が捨てられると思うと豊かになり過ぎた日本が数年後、数十年後にどんなしっぺ返しにあうのかと不安になる。未来の日本を案じつつ買い物をしていると遠くから大きな声で「お母さ～ん、こっちにも半額の商品が沢山あるよ～」とわが子の声。

（ケチなわけではないんです、もったいないからです）と心の中で言い訳しつつ慌ててわが子を黙らせた。

◆ 食べ物の記憶

私の故郷は福島県の阿武隈山系に囲まれた田村市というところです。

ご存じのように今の福島は原発事故の影響で大変な苦労をしています。田村市は原発のある大熊町の隣なので市の一部の地域は避難地区になっていました。放射能の影響も大きく、米をはじめ農産物は食べることや売ることがむずかしくなったものもあります。

私は小さい頃から沢山の山の幸を食べて育ちました。春は筍に山菜、初夏の梅、みょうがにしいたけ、秋には柿やぶどうにりんごと季節が廻ればあたりまえに食べられていた物が今は食べられません。放射線量を測り数値が低ければ食べることはできますが幼い頃のように（お腹がすいた）と学校帰りに柿の実をもいで食べたりすることはできないのです。

夕暮れまで思いっきり遊んで腹ペコの帰り道、近所の家々からもれ出す夕飯のいい匂い。とたんにお腹がグーグー鳴りながら家について夢中で食べた温かいご飯のおいしさは今でもしっかりと思い出すことができます。

醤油がこげた香ばしい匂いの焼きおにぎり。大きな鉄鍋いっぱいのきんぴらごぼう。具沢山の豚汁。母や祖母がせっせと作ってくれた食べ物の記憶は何十年たっても私を幸せな気持ちにさせてくれる。食べること、食べられる事の喜びを日本人はいま一度思い出し子孫に伝えなければならない。

◆ 未来へ

夕方になると子供たちからの「今日のご飯はなに？」攻撃。しつこいのでいらいらしながら台所に立つのだが、夕食後に空っぽになったお皿と満足そうな家族の顔をみると明日のご飯は何にしようか…とまた元気が湧いてくる。

いつかわが子も我が家の食卓を思い出し温かい気持ちになってくれるだろう。そして将来、子供たちが食べ物に困らぬように今年も大切に畑を守っていこうと決意を新たにした。